

第1章 施工計画

問題. 1 事前調査

令和7年度前期 No.28

事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 仮設排水計画に当たり、汚水と雨水との区別の必要があるか確認をすることとした。
- (2) 掘削工事の計画に当たり、既存の地下埋設物を記載した図面があったが、位置や規模の確認のための試掘調査を行うこととした。
- (3) 山留め工事の計画に当たり、前面道路や周辺地盤の高低の調査を行うこととした。
- (4) 鉄骨の建方計画に当たり、近隣の商店や工場の業種について調査を行うこととした。

問題. 2 事前調査

令和6年度後期 No.28

事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 着工に当たって、埋蔵文化財の有無について調査を行うこととした。
- (2) 着工に当たって、敷地の高低差や既存樹木が設計図書と整合しているか確認をすることとした。
- (3) 土の掘削計画に当たって、振動が発生するため、近隣の商店や工場の業種の調査を行うこととした。
- (4) 防護柵の設置に当たって、敷地の高低差や地中埋設配管の位置の確認をすることとした。

問題. 3 事前調査

令和6年度前期 No.28

事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 山留め工事の計画に当たって、設計時の地盤調査が不十分であったため、ボーリング調査を追加して行うこととした。
- (2) 鉄骨工事の計画に当たって、製作工場から現場までの搬入経路の調査を行うこととした。
- (3) 鉄骨の建方の計画に当たって、日影による近隣への影響の調査を行うこととした。
- (4) 解体工事の計画に当たって、発生する木くずを再生するため、再資源化施設の受入れ状況の調査を行うこととした。

問題. 4 事前調査

令和5年度後期 No.29

事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 鉄骨の建方計画に当たり、近隣の商店や工場の業種について調査を行うこととした。
- (2) 敷地境界と敷地面積の確認のため、地積測量を行うこととした。
- (3) 敷地内の建家、立木、工作物の配置を把握するため、平面測量を行うこととした。
- (4) 根切り工事に当たり、埋蔵文化財の有無について調査を行うこととした。

問題. 5 事前調査

令和5年度前期 No.29

事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 既存の地下埋設物を記載した図面があったが、位置や規模の確認のための試掘調査を行うこととした。
- (2) 既製杭の打込みが予定されているため、近接する工作物や舗装の現況の調査を行うこととした。
- (3) 根切り工事が予定されているため、前面道路や周辺地盤の高低の調査を行うこととした。
- (4) 防護柵を設置するため、敷地地盤の高低や地中埋設配管の調査を行うこととした。

問題. 6 事前調査

令和4年度後期 No.29

事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 山留め工事の計画に当たって、周辺地盤の高低について調査することとした。
- (2) 工事用資材の搬入計画に当たって、幼稚園や学校の場所を確認し、輸送経路の制限の有無を調査することとした。
- (3) 土の掘削計画に当たって、振動が発生するため、近隣の商店や工場の業種を調査することとした。
- (4) 解体工事の計画に当たって、発生する木くずを処分するため、一般廃棄物の処分場所を調査することとした。

問題.7 事前調査

令和4年度前期 No.29

事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 敷地内の排水工事に先立ち、排水管の勾配が公設柵まで確保できるか調査を行うこととした。
- (2) 杭工事に先立ち、騒音規制及び振動規制と、近隣への影響の調査を行うこととした。
- (3) 山留め工事に先立ち、設計時の地盤調査が不十分であったため、試掘調査を行うこととした。
- (4) 鉄骨工事の建方に先立ち、日影による近隣への影響の調査を行うこととした。

問題.8 事前調査

令和3年度後期 No.29

事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 既製杭の打込みが予定されているため、近接する工作物や舗装の現況の調査を行うこととした。
- (2) 掘削中に地下水を揚水するため、周辺の井戸の使用状況の調査を行うこととした。
- (3) 工事予定の建物による電波障害に関する調査は済んでいたため、タワークレーン設置による影響の調査を省くこととした。
- (4) 地中障害物を確認するため、過去の土地利用の履歴について調査を行うこととした。

問題.9 事前調査

令和3年度前期 No.29

事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 総合仮設計画に当たり、敷地周辺の電柱及び架空電線の調査を行った。
- (2) 解体工事計画に当たり、発生する木くずを再生するため、再資源化施設の調査を行った。
- (3) 根切り工事に当たり、埋蔵文化財の有無について調査を行った。
- (4) 防護棚の設置に当たり、敷地地盤の高低及び地中埋設配管の調査を行った。

問題.10 施工計画書の作成

能力問題
令和7年度前期 No.42

施工計画書の作成に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 総合施工計画書は、総合仮設計画を含めて作成する。
- (2) 総合施工計画書の作成に当たり、敷地周辺の交通量や交通規制等を調査する。
- (3) 総合施工計画書の作成に当たり、敷地境界線及び標石の位置を調査する。
- (4) 工種別施工計画書は、総合施工計画書に先立って作成する。
- (5) 工種別施工計画書は、品質管理計画書や施工要領書を含めて作成する。

問題.11 仮設計画

令和7年度前期 No.29

仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 鋼板製仮囲いの下端には、雨水が流れ出やすいように隙間を設けることとした。
- (2) 敷地内に仮設道路を設置するに当たり、地盤が軟弱であったため、浅層地盤改良を行うこととした。
- (3) 工事用ゲートには、車両の入退場を知らせる標示灯を設置したが、周辺生活環境に配慮してブザーを設置しないこととした。
- (4) 工事現場の周辺状況により、危害防止上支障がないことから、仮囲いとしてガードフェンスを設置することとした。

問題.12 仮設計画

令和6年度後期 No.29

仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 既存の塀が所定の高さを有し、危害を十分防止し得る構造であったため、仮囲いとして使用することとした。
- (2) 工事用ゲートを複数設置するため、守衛所をメインのゲート脇に設置し、その他は警備員だけを配置することとした。
- (3) 塗料や溶剤等の保管場所は、管理をしやすくするため、資材倉庫の一面を不燃材料で間仕切り、設置することとした。
- (4) 施工者用事務所と監理者用事務所は、機能が異なるため、部屋を分けて設けることとした。

問題.13 仮設計画

令和6年度前期 No.29

仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 仮囲いには、合板パネル等の木製材料を使用することとした。
- (2) 仮囲いに設置する通用口の扉は、内開きとすることとした。
- (3) 工事ゲートは、トラックアジテータが通行するため、有効高さを3.8mとすることとした。
- (4) 仮囲いを設けなければならなかったため、その高さは周辺の地盤面から1.5mとすることとした。

問題.14 仮設計画

令和5年度後期 No.30

仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 下小屋は、材料置場の近くに設置し、電力や水道等の設備を設けることとした。
- (2) 工事用ゲートの有効高さは、鉄筋コンクリート造の工事のため、最大積載時のトラックアジテータの高さとすることとした。
- (3) 工事現場の周辺状況により、危害防止上支障がないことから、仮囲いとしてガードフェンスを設置することとした。
- (4) 工事用ゲートには、車両の入退場を知らせる標示灯を設置したが、周辺生活環境に配慮しブザーは設置しないこととした。

問題.15 仮設計画

令和5年度前期 No.30

仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 規模が小さい作業所のため、守衛所を設けず、警備員だけを出入口に配置することとした。
- (2) 敷地内に仮設道路を設置するに当たり、地盤が軟弱であったため、浅層地盤改良を行うこととした。
- (3) 鋼板製仮囲いの下端には、雨水が流れ出やすいように隙間を設けることとした。
- (4) 仮囲いの出入口は、管理をしやすいように、人や車両の入退場の位置を限定することとした。

問題.16 仮設計画

令和4年度後期 No.30

仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 塗料や溶剤等の保管場所は、管理をしやすいように、資材倉庫の一面を不燃材料で間仕切り、設置することとした。
- (2) 所定の高さを有し、かつ、危害を十分防止し得る既存の扉を、仮囲いとして使用することとした。
- (3) 工事用ゲートや通用口は必要な場合を除き閉鎖することとし、開放する場合は誘導員を配置することとした。
- (4) 工事現場の敷地周囲の仮囲いに設置する通用口には、内開き扉を設けることとした。

問題.17 仮設計画

令和4年度前期 No.30

仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 騒音、塵埃、飛沫等の近隣への影響を抑制するため、仮囲いを設けることとした。
- (2) 施工者用事務所と監理者用事務所は、機能が異なるため、それぞれ分けて設けることとした。
- (3) ハンガー式門扉は、扉を吊る梁が車両の積荷高さを制約する必要があるため、有効高さを検討することとした。
- (4) 酸素やアセチレン等のボンベ類の貯蔵小屋は、ガスが外部に漏れないよう、密閉構造とすることとした。

問題.18 仮設計画

令和3年度後期 No.30

仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 規模が小さい作業所のため、守衛所を設けず、警備員だけを出入口に配置することとした。
- (2) 作業員詰所は、職種数や作業員の増減に対応するため、大部屋方式とすることとした。
- (3) 下小屋は、材料置場の近くに設置し、電力及び水道等の設備を設けることとした。
- (4) 鋼板製仮囲いの下端には、雨水が流れ出やすいように隙間を設けることとした。

問題.19 仮設計画

令和3年度前期 No.30

仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 仮囲いには、合板パネルなどの木製材料を使用することとした。
- (2) 仮囲いを設けなければならないため、その高さは周辺の地盤面から1.5mとすることとした。
- (3) ハンガー式門扉は、重量と風圧を軽減するため、上部を網状の構造とすることとした。
- (4) 工事ゲートは、トラックアジテータが通行するため、有効高さを3.8mとすることとした。

問題.20 材料の保管

令和6年度前期 No.30

工事現場における材料の保管に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) ロール状に巻いたカーペットは、屋内の乾燥した場所に、縦置きにして保管した。
- (2) 溶剤系のビニル床タイル用接着剤は、換気のよい場所に保管した。
- (3) ALCパネルは、台木を水平に置いた上に平積みで保管した。
- (4) 左官用の砂は、周辺地盤より高い場所に、水はけをよくした置場を設置して保管した。

問題.21 材料の保管

令和5年度後期 No.31

工事現場における材料の保管に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 巻いた壁紙は、くせが付かないように立てて保管した。
- (2) ビニル床タイルは、乾燥している床に箱詰め梱包のまま、積重ねを10段までとして保管した。
- (3) 板ガラスは、クッション材を挟み、乾燥した場所に平積みで保管した。
- (4) 防水用の袋入りアスファルトは、積重ねを10段までとして保管した。

問題.22 材料の保管

令和4年度前期 No.31

工事現場における材料の保管に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 袋詰めセメントは、風通しのよい倉庫に保管した。
- (2) 型枠用合板は、直射日光が当たらないよう、シートを掛けて保管した。

- (3) 長尺のビニル床シートは、屋内の乾燥した場所に縦置きにして保管した。
- (4) 鉄筋は、直接地面に接しないように角材間に渡し置き、シートを掛けて保管した。

問題.23 材料の保管

令和3年度後期 No.31

工事現場における材料の保管に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) アスファルトルーフィングは、屋内の乾燥した場所に平積みで保管する。
- (2) ALCパネルは、台木を水平に置いた上に平積みで保管する。
- (3) 巻いた壁紙は、くせが付かないように屋内に立てて保管する。
- (4) アルミニウム製建具は、平積みを避け、縦置きにして保管する。

問題.24 申請・届出等

令和7年度前期 No.30

労働基準監督署長に届け出なければならないものとして、不適当なものはどれか。

- (1) 積載荷重が0.5 tの仮設の人荷用エレベーターの設置届
- (2) 支柱の高さが3.5m以上の型枠支保工の設置届
- (3) 高さが10m以上で、設置期間が60日以上で、支柱組足場の設置届
- (4) つり上げ荷重が3 tのクレーンの設置届

問題.25 申請・届出等

令和6年度後期 No.30

建築工事に係る届出に関する記述として、不適当なものはどれか。

- (1) 掘削深さが10m以上である地山の掘削を行うため、建設工事計画届を労働基準監督署長に届け出た。
- (2) 延べ面積が10㎡を超える建築物を除却するため、建築物除却届を労働基準監督署長に届け出た。
- (3) 仮設のゴンドラを設置するため、ゴンドラ設置届を労働基準監督署長に届け出た。
- (4) 耐火建築物に吹き付けられた石綿等の除去作業を行うため、建設工事計画届を労働基準監督署長に届け出た。

問題.26 申請・届出等

令和5年度前期 No.31

建築工事に係る申請や届出等に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 振動規制法による特定建設作業を指定地域内で行うため、特定建設作業実施届出書を市町村長に提出した。
- (2) 常時10人の労働者が従事する事業で附属寄宿舍を設置するため、寄宿舍設置届を市町村長に提出した。
- (3) 積載荷重が1tの仮設の人荷用エレベーターを設置するため、エレベーター設置届を労働基準監督署長に提出した。
- (4) 歩道に工事用仮囲いを設置するため、道路占用許可申請書を道路管理者に提出した。

問題.27 申請・届出等

令和4年度後期 No.31

労働基準監督署長に届け出なければならないものとして、不適当なものはどれか。

- (1) 延べ面積が10㎡を超える建築物の除却
- (2) 現場で常時15人の労働者が従事するための特定元方事業者の事業開始報告
- (3) 設置期間が60日以上のもつり足場の設置
- (4) つり上げ荷重が3tのクレーンの設置

問題.28 申請・届出等

令和3年度前期 No.31

建築工事に係る申請や届出等に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 道路上に高所作業車を駐車して作業するため、道路使用許可申請書を警察署長宛てに届け出た。
- (2) 振動規制法による特定建設作業を指定地域内で行うため、特定建設作業実施届出書を市町村長宛てに届け出た。
- (3) 延べ面積が20㎡の建築物を建築するため、建築工事届を市町村長宛てに届け出た。
- (4) 支柱の高さが3.5m以上の型枠支保工を設置するため、設置の届けを労働基準監督署長宛てに届け出た。

第2章 工程管理

問題.1 工程計画・工程管理

令和6年度前期 No.31

建築工事の工程計画及び工程管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 基本工程表は、工事全体を一つの工程表としてまとめたもので、工事の主要な作業の進捗を表示する。
- (2) 各作業の実働日数は、作業の総施工数量に1日当たりの施工数量を乗じて求める。
- (3) 工程計画を立てるに当たり、その地域の雨天日や強風日等を推定して作業不能日を設定する。
- (4) 暦日とは、実働日数に作業休止日を考慮した日数である。

問題.2 工程計画・工程管理

令和5年度前期 No.32

工程計画及び工程管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 工期短縮に用いる手法として、山積工程表における山崩しがある。
- (2) ネットワーク工程表は、工程における複雑な作業間の順序関係を視覚的に表現することができる。
- (3) 工程管理の手法として、3次元CADやコンピューターグラフィックスを使用することで工事現場の進捗状況を視覚的に把握する方法がある。
- (4) Sチャートは、工事の進捗に対応した出来高の累積値を縦軸に、時間を横軸に取って、出来高の進捗を数量的、かつ、視覚的に示すことができる。

問題.3 工程計画・工程管理

令和4年度後期 No.32

建築工事の工程計画及び工程管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 工事に必要な実働日数に作業休止日を考慮した日数を、暦日という。
- (2) 工期を横軸に取り、出来高の累計を縦軸とした進捗度グラフは、直線となる。
- (3) ネットワーク工程表は、作業の順序関係、開始時期及び終了時期を明確にしたもので、工程の変化に対応しやすい。
- (4) 工程管理においては、実施工程を分析検討し、その結果を計画工程の修正に合理的に反映させる。

問題. 4 工程計画・工程管理

令和3年度前期 No.32

工程計画及び工程管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) ネットワーク工程表は、工程における複雑な作業間の順序関係を視覚的に表現することができる工程表である。
- (2) 基本工程表は、工事全体を一つの工程表としてまとめたもので、工事の主要な作業の進捗を表示する。
- (3) 工程計画を立てるに当たり、その地域の雨天日や強風日等を推定して作業不能日を設定する。
- (4) 各作業の所要期間は、作業の施工数量に投入数量と1日当たりの施工能力を乗じて求める。

問題. 5 総合工程表の立案

令和7年度前期 No.31

工程計画の検討に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 敷地周辺の上下水道やガス等の公共埋設物を把握する。
- (2) 使用揚重機の能力と台数による効率やコストへの影響を検討する。
- (3) 敷地における騒音及び振動に関する法的規制を把握する。
- (4) 工程上の主要管理項目を把握するため、最初に工種別の施工組織体系を全て明確にする。

問題. 6 総合工程表の立案

令和6年度後期 No.31

工程計画の検討に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 工区割りを行い、後続作業を並行して始めることにより、工期短縮が可能か検討する。
- (2) 作業ごとに1日当たりの作業量が、それぞれ均等になるように調整する。
- (3) 工程計画上のマイルストーン(管理日)は、工程上の重要な区切りを避けて計画する。
- (4) 工事を行う地域における労務、資材、機材等の調達状況を調査して、手配を計画する。

問題. 7 総合工程表の立案

令和5年度後期 No.32

工程計画の立案段階で考慮すべき事項として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 最初に全ての工種別の施工組織体系を把握する。
- (2) 敷地周辺の上下水道やガス等の公共埋設物を把握する。
- (3) 鉄骨工事の工程計画では、資材や労務の調達状況を調査して、手配を計画する。
- (4) 型枠工事の工程計画では、型枠存置期間を考慮して、せき板や支保工の転用を検討する。

問題. 8 総合工程表の立案

令和4年度前期 No.32

総合工程表の立案に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 上下階で^{ふくそう}輻輳する作業では、資材運搬、機器移動等の^{きくそう}動線が^{さくそう}錯綜しないように計画する。
- (2) 鉄骨工事の工程計画では、建方時期に合わせた材料調達、工場製作期間を検討する。
- (3) 工区分割を行い後続作業を並行して始めることにより、工期短縮が可能か検討する。
- (4) 工程計画上のマイルストーン(管理日)は、工程上の重要な区切りを避けて計画する。

問題. 9 総合工程表の立案

令和3年度後期 No.32

工程計画の立案段階で考慮すべき事項として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 敷地周辺の上下水道やガス等の公共埋設物を把握する。
- (2) 敷地内の既存埋設物の状況を把握する。
- (3) 全ての工種別の施工組織体系を把握する。
- (4) 敷地における騒音及び振動に関する法的規制を把握する。

問題.10 バーチャート工程表

令和7年度前期 No.32

バーチャート工程表に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 主要な工事の節目をマイルストーンとして工程表に付加すると、工程の進捗状況が把握しやすくなる。
- (2) 工事全体を掌握することが容易で、作成しやすい。
- (3) 工程表に示す作業を増やしたり、作業を細分化すると、作業間の関係が把握しやすくなる。
- (4) 各作業の所要日数や施工日程が把握しやすい。

問題.11 バーチャート工程表

令和6年度後期 No.32

バーチャート工程表に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 出来高の累計を重ねて表現したものは、工事出来高の進捗状況が把握しやすい。
- (2) 建築現場で長年にわたって使用されており、工事全体の工程がわかりやすい。
- (3) 各作業の相互関係がわかりやすく、クリティカルパスが把握しやすい。
- (4) 各作業ごとの日程及び工事全体の工程計画が作成しやすい。

問題.12 バーチャート工程表

令和6年度前期 No.32

バーチャート工程表の一般的な特徴に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 各工事間の細かい作業工程の関連性が把握しにくい。
- (2) 工程上で重点管理する必要がある作業が判断しやすい。
- (3) 複雑な時間計算が不要であるため、作成しやすい。
- (4) 各作業の開始時期、終了時期及び所要期間が把握しやすい。

問題.13 バーチャート工程表

令和5年度後期 No.33

バーチャート工程表の特徴に関する記述として、ネットワーク工程表と比較した場合、最も不適当なものはどれか。

- (1) 手軽に作成することができ、視覚的に工程が把握しやすい。
- (2) 作業間調整に伴う修正がしやすい。
- (3) 前工程の遅れによる後工程への影響が把握しにくい。
- (4) 全体工期の短縮を検討する場合、工程のどこを縮めればいいのかかわかりにくい。

問題.14 バーチャート工程表

令和5年度前期 No.33

バーチャート工程表に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 工事種目を縦軸に、月日を横軸に示し、各作業の開始から終了までを横線で表したものである。
- (2) 工程表に示す作業を増やしたり、作業を細分化すると、作業間の関係が把握しやすくなる。
- (3) 作業の流れ、各作業の所要日数や施工日程が把握しやすい。
- (4) 工程の進捗をマイルストーンごとに確認すると、全体工程の遅れを防ぐことにつながる。

問題.15 バーチャート工程表

令和4年度後期 No.33

バーチャート工程表に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 複雑な時間計算が不要であるため、作成しやすい。
- (2) 工程上の重点管理しなければならない作業が判断しやすい。
- (3) 各作業の開始時期、終了時期及び所要期間を把握しやすい。
- (4) 出来高の累計を重ねて表現したものは、工事出来高の進捗状況が把握しやすい。

問題.16 バーチャート工程表

令和4年度前期 No.33

バーチャート工程表に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 工事全体を掌握することが容易で、作成しやすい。
- (2) クリティカルパスが把握しやすい。
- (3) 各作業の全体工期に与える影響度が把握しにくい。
- (4) 各工事間の細かい作業工程の関連性が把握しにくい。

問題.17 バーチャート工程表

令和3年度後期 No.33

バーチャート工程表に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 縦軸に工事項目を、横軸に月日を示し、各作業の開始から終了までを横線で表したものである。
- (2) 主要な工事の節目をマイルストーンとして工程表に付加すると、工程の進捗状況が把握しやすくなる。
- (3) 各作業の相互関係が表されていないため、工期に影響する作業がどれであるか掴みにくい。
- (4) 工程表に示す作業を増やしたり、作業を細分化すると、工程の内容が把握しやすくなる。

問題.18 バーチャート工程表

令和3年度前期 No.33

バーチャート工程表に関する記述として、最も適当なものはどれか。

- (1) 工事出来高の累積値を表現しているため、工事進捗度合が把握しやすい工程表である。
- (2) 各作業に対する先行作業、並列作業、後続作業の相互関係が把握しやすい工程表である。
- (3) 作業間調整に伴う修正が容易な工程表である。
- (4) 各作業ごとの日程及び工事全体の工程計画が、比較的容易に作成できる工程表である。

第3章 品質管理

問題.1 品質管理の用語

令和6年度後期 No.33

次のうち、品質管理に関する用語として、最も関係の少ないものはどれか。

- (1) マニフェスト
- (2) ISO9000ファミリー
- (3) QA表
- (4) 管理図

問題.2 品質管理の用語

令和6年度前期 No.42

品質管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 品質管理とは、施工計画書に基づいて工事のあらゆる段階で問題点や改善方法等を見出しながら、合理的、かつ、経済的に施工を行うことである。
- (2) 管理項目とは、目標の達成を管理するために、評価尺度として選定した項目のことである。
- (3) QCDSとは、計画、実施、点検、処置のサイクルを確実、かつ、継続的に回して、プロセスのレベルアップを図る考え方である。
- (4) 特性要因図とは、結果の特性とそれに影響を及ぼしている要因との関係を、魚の骨のような図に体系的にまとめたものである。
- (5) 工程間検査とは、作業工程の途中段階で、ある工程から次の工程に移ってもよいかどうかを判定するために行うものである。

問題.3 品質管理の用語

令和5年度前期 No.34

次のうち、品質管理に関する用語として、最も関係の少ないものはどれか。

- (1) PDCA
- (2) トレーサビリティ
- (3) ALC
- (4) サンプルング

問題. 4 品質管理の用語

令和4年度後期 No.34

品質管理の用語に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 特性要因図とは、結果の特性とそれに影響を及ぼしている要因との関係を、魚の骨のような図に体系的にまとめたものである。
- (2) 見える化とは、問題、課題、対象等をいろいろな手段を使って明確にし、関係者全員が認識できる状態にすることである。
- (3) 管理項目とは、目標の達成を管理するために、評価尺度として選定した項目のことである。
- (4) QCDSとは、計画、実施、点検、処置のサイクルを確実、かつ、継続的に回して、プロセスのレベルアップを図る考え方である。

問題. 5 品質管理の用語

令和3年度前期 No.34

次の用語のうち、品質管理に最も関係の少ないものはどれか。

- (1) SMW
- (2) PDCA
- (3) ばらつき
- (4) トレーサビリティ

問題. 6 施工品質管理表(QC工程表)

令和3年度後期 No.34

施工品質管理表(QC工程表)の作成に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 工種別又は部位別に作成する。
- (2) 管理項目は、目指す品質に直接関係している要因から取りあげる。
- (3) 管理項目は、品質に関する重要度の高い順に並べる。
- (4) 管理項目ごとに、管理担当者の分担を明確にする。

問題. 7 試験・検査(工事現場)

令和6年度後期 No.34

工事現場における試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) フレッシュコンクリートのスランプの測定は、スランプゲージを用いて行った。
- (2) 外壁タイル張り後のタイル接着力の測定は、油圧式簡易引張試験器を用いて行った。
- (3) 構造体コンクリートのひび割れの幅の測定は、クラックスケールを用いて行った。

- (4) 吹付けロックウールによる耐火被覆材の厚さの測定は、ダイヤルゲージを用いて行った。

問題. 8 試験・検査(工事現場)

令和4年度後期 No.35

工事現場における試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 鉄筋のガス圧接部のふくらみの直径の測定は、デジタルノギスを用いて行った。
- (2) フレッシュコンクリートのスランプの測定は、スランプゲージを用いて行った。
- (3) 外壁タイル張り後のタイル接着力試験は、油圧式簡易引張試験器を用いて行った。
- (4) 硬質ウレタンフォーム断熱材の吹付け作業中の厚さの測定は、ダイヤルゲージを用いて行った。

問題. 9 試験・検査(コンクリート)

令和7年度前期 No.35

コンクリートの試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 1回の圧縮強度試験の供試体の個数は、3個とした。
- (2) 調合管理強度の試験に用いる供試体の養生方法は、現場水中養生とした。
- (3) 粗骨材の最大寸法が20mmの高流動コンクリートは、スランプフロー試験を行った。
- (4) スランプ試験において、スランプコーンを引き上げた後、コンクリートが偏って形が不均衡になったため、別の試料によって新たに試験を行った。

問題. 10 試験・検査(コンクリート)

令和6年度前期 No.35

コンクリートの試験及び検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) フレッシュコンクリートの荷卸し地点での検査におけるスランプ試験は、0.5cm単位で測定した。
- (2) フレッシュコンクリートの荷卸し地点での検査における普通コンクリートの空気量の許容差は、±2.5%とした。
- (3) コンクリートの打込み中に品質の変化が認められたため、再度スランプ試験を行った。
- (4) 試験に用いる試料は、トラックアジテータから採取する直前に、アジテータで高速攪拌した。

問題.11 試験・検査(コンクリート)

令和5年度後期 No.36

コンクリートの試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 1回の圧縮強度試験の供試体の個数は、3個とした。
- (2) 1回の圧縮強度試験は、コンクリート打込み日ごと、打込み工区ごと、かつ、150m³以下にほぼ均等に分割した単位ごとに行った。
- (3) スランプの測定値は、スランプコーンを引き上げた後の、平板からコンクリート最頂部までの高さとした。
- (4) スランプ試験において、スランプコーンを引き上げた後、コンクリートが偏って形が不均衡になったため、別の試料によって新たに試験を行った。

問題.12 試験・検査(コンクリート)

令和3年度後期 No.36

コンクリートの試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) フレッシュコンクリートの温度測定は、その結果を1℃単位で表示する。
- (2) 圧縮強度の試験は、コンクリート打込み日ごと、打込み工区ごと、かつ、150m³以下にほぼ均等に分割した単位ごとに行う。
- (3) スランプ試験は、1cm単位で測定する。
- (4) スランプ試験時に使用するスランプコーンの高さは、300mmとする。

問題.13 試験・検査(コンクリート)

令和3年度前期 No.36

コンクリートの試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) スランプの測定値は、スランプコーンを引き上げた後の、平板からコンクリート最頂部までの高さとした。
- (2) 材齢が28日の構造体コンクリート強度の判定に用いる供試体は、現場水中養生とした。
- (3) 受入れ検査における圧縮強度試験は、3回の試験で1検査ロットを構成した。
- (4) スランプ試験は、コンクリートの打込み中に品質の変化が認められた場合にも行うこととした。

問題.14 試験・検査(レディーミクストコンクリート)

令和4年度前期 No.36

レディーミクストコンクリートの受入れ時において、検査及び確認を行わない項目はどれか。

- (1) 運搬時間
- (2) 骨材の粒度
- (3) 空気量
- (4) コンクリートの温度

問題.15 試験・検査(鉄骨工事)

令和7年度前期 No.33

トルシア形高力ボルトのマーキングに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) マーキングは、ボルト軸からナット、座金及び母材にかけて一直線に行う。
- (2) マーキングは、一次締めの後に行う。
- (3) マークのずれによって、トルク値を確認できる。
- (4) マークのずれによって、ナットの回転量を確認できる。

問題.16 試験・検査(鉄骨工事)

令和6年度後期 No.35

鉄骨工事の検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 溶融亜鉛めっき面の割れの検査は、目視で行った。
- (2) 溶接部のブローホールの検査は、目視で行った。
- (3) 溶接部の表面割れの検査は、浸透探傷試験により行った。
- (4) スタッド溶接部の検査は、打撃曲げ試験により行った。

問題.17 試験・検査(鉄骨工事)

令和5年度後期 No.35

トルシア形高力ボルトのマーキングに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) マーキングは、高力ボルトの取付け後、直ちに行う。
- (2) マーキングは、ボルト軸からナット、座金及び母材にかけて一直線に行う。
- (3) マークのずれによって、軸回りの有無を確認できる。
- (4) マークのずれによって、本締め完了の確認ができる。

問題.18 試験・検査(鉄骨工事)

令和5年度前期 No.36

トルシア形高力ボルトの本締め完了後に確認すべき事項として、最も不適当なものはどれか。

- (1) ナット回転量は、各ボルト群のナットの平均回転角度の $\pm 30^\circ$ 以内であることを確認する。
- (2) 一次締めの後につけたマークのずれにより、共回りが生じていないことを確認する。
- (3) ボルト締付けの合否は、トルク値を測定して確認する。
- (4) ナット面から突き出たボルトの余長が、ねじ1山から6山までの範囲であることを確認する。

問題.19 試験・検査(鉄骨工事)

令和4年度後期 No.36

鉄骨工事の検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) トルシア形高力ボルトの本締め完了は、ピンテールの破断とマーキングのマークのずれによって確認した。
- (2) スタッド溶接の合否は、打撃曲げ試験によって確認した。
- (3) 溶接部の欠陥であるブローホールは、目視によって有無を確認した。
- (4) 溶接後のビード外観は、目視によって表面の不整の有無を確認した。

問題.20 試験・検査(鉄骨工事)

令和3年度後期 No.35

トルシア形高力ボルトの1次締め後に行うマーキングに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) マークのずれによって、軸回りの有無を確認できる。
- (2) マークのずれによって、トルク値を確認できる。
- (3) マークのずれによって、ナットの回転量を確認できる。
- (4) マークのずれによって、共回りの有無を確認できる。

問題.21 試験・検査(全般)

令和7年度前期 No.34

品質管理のための試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) タイル工事において、外壁タイルの接着力の確認のため、引張接着試験を行った。
- (2) シーリング工事において、接着性の確認のため、圧縮せん断接着強さ試験を行った。
- (3) 鉄筋工事において、鉄筋のガス圧接部の確認のため、超音波探傷試験を行った。
- (4) 地業工事において、支持地盤の地耐力の確認のため、平板載荷試験を行った。

問題.22 試験・検査(全般)

令和6年度前期 No.34

品質管理のための試験及び検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 鉄筋工事において、ガス圧接部のふくらみの直径の確認は、デジタルノギスを用いて行なった。
- (2) タイル工事において、タイルの浮きの確認は、テストハンマーを用いて行った。
- (3) 木工事において、造作用木材の含水率の確認は、高周波水分計を用いて行った。
- (4) 鉄骨工事において、隅肉溶接のサイズの確認は、マイクロメーターを用いて行った。

問題.23 試験・検査(全般)

令和5年度前期 No.35

品質管理のための試験及び検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) シーリング工事において、接着性の確認のため、簡易接着性試験を行った。
- (2) タイル工事において、外壁タイルの接着力の確認のため、引張接着試験を行った。
- (3) コンクリート工事において、フレッシュコンクリートの受入検査のため、空気量試験を行った。
- (4) 既製コンクリート杭地業工事において、根固め液の強度の確認のため、針入度試験を行った。

問題.24 試験・検査(全般)

令和4年度前期 No.35

品質管理のための試験及び検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 木工事において、造作用木材の含水率の確認は、高周波水分計を用いて行った。
- (2) 地業工事において、支持地盤の地耐力の確認は、平板載荷試験によって行った。
- (3) 鉄筋工事において、鉄筋のガス圧接部の確認は、超音波探傷試験によって行った。
- (4) 鉄骨工事において、隅肉溶接のサイズの確認は、マイクロメーターを用いて行った。

問題.25 試験・検査(全般)

令和3年度前期 No.35

品質管理のための試験及び検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 鉄骨工事において、高力ボルト接合部の締付けの検査のため、超音波探傷試験を行った。
- (2) シーリング工事において、接着性の確認のため、簡易接着性試験を行った。
- (3) コンクリート工事において、フレッシュコンクリートの受入れ検査のため、空気量試験を行った。
- (4) 鉄筋工事において、ガス圧接継手の検査のため、抜き取った接合部の引張試験を行った。

問題.26 試験・検査(検査の種類)

令和6年度前期 No.33

品質管理の検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 抜取検査は、ある程度の不良品の混入が許される場合に適用される。
- (2) 抜取検査は、品物がロットとして検査できない場合に適用される。
- (3) 全数検査は、不良品を見逃すと後工程に重大な影響を与える場合に適用される。
- (4) 全数検査は、検査費用に比べて得られる効果が大きい場合に適用される。

問題.27 品質管理全般

令和5年度後期 No.34

品質管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 品質計画に基づく施工の試験又は検査の結果は、次の計画や設計に活かす。
- (2) 川上管理とは、品質に与える影響が大きい前段階や生産工程の上流で品質を管理することである。
- (3) 施工品質管理表(QC工程表)とは、管理項目について管理値、検査の時期、方法、頻度等を明示したものである。
- (4) 試験とは、性質又は状態を調べ、判定基準と比較して良否の判断を下すことである。

問題.28 品質管理全般

令和4年度前期 No.34

品質管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 工程間検査は、作業工程の途中で、ある工程から次の工程に移ってもよいかどうかを判定するために行う。
- (2) 品質管理は、作業そのものを適切に実施するプロセス管理に重点を置くより、試験や検査に重点を置くほうが有効である。
- (3) 品質管理とは、施工計画書に基づいて工事のあらゆる段階で問題点や改善方法等を見出しながら、合理的、かつ、経済的に施工を行うことである。
- (4) 施工の検査に伴う試験は、試験によらなければ品質及び性能を証明できない場合に行う。

第4章 安全管理

問題. 1 工事現場の安全管理

能力問題

令和6年度後期 No.42

現場の安全管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 足場からの墜落防止のため、枠組足場に交さ筋かい及び高さ15cmの幅木を設けた。
- (2) 工事現場からの飛来落下物による危害防止のため、足場の外側面に工事用シートを設けた。
- (3) 高さ2m以上の箇所作業を安全に行うため、作業場所に必要な照度の照明を設けた。
- (4) 単管足場の沈下防止のため、敷角の上に単管パイプを直接乗せて、脚部に根がらみを設けた。
- (5) 作業時の踏み抜き防止のため、スレートで葺かれた屋根の上に幅30cmの歩み板を設けた。

問題. 2 工事現場の安全管理

令和6年度前期 No.36

工事現場の安全管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 新規入場者教育とは、新しく現場に入場した者に対して、作業所の方針、安全施工サイクルの具体的な内容、作業手順等を教育することである。
- (2) KY(危険予知)活動とは、作業に伴う危険性又は有害性に対し、作業グループが正しい行動を互いに確認し合う活動である。
- (3) TBM(ツール ボックス ミーティング)とは、職長を中心に、作業開始前の短時間で、当日の安全作業について話し合う活動である。
- (4) OJT(オンザジョブトレーニング)とは、施工の安全を図るため、毎日、毎週、毎月の基本的な実施事項を定型化し、継続的に実施する活動である。

問題. 3 工事現場の安全管理

令和4年度前期 No.37

工事現場の安全管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 安全施工サイクルとは、施工の安全を図るため、毎日、毎週、毎月の基本的な実施事項を定型化し、継続的に実施する活動である。
- (2) 新規入場者教育とは、新しく現場に入場した者に対して、作業所の方針、安全施工サイクルの具体的な内容、作業手順等を教育することである。
- (3) ゼロエミッションとは、作業に伴う危険性又は有害性に対し、作業グループが正しい行動を互いに確認し合う活動である。
- (4) リスクアセスメントとは、労働災害の要因となる危険性又は有害性を洗い出してリスクを見積もり、優先順位を定め、リスクの低減措置を検討することである。

問題. 4 災害防止対策

令和7年度前期 No.36

建築工事における公衆に対する危害又は迷惑を防止するための対策に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) くずやごみの投下による飛散を防止するため、ダストシュートを設置した。
- (2) 歩行者等通路の見通し確保のため、仮囲いのコーナー部分にクリアパネルを設置した。
- (3) 解体時の騒音やコンクリート片の飛散を防止するため、防音パネルを設置した。
- (4) 外壁の塗装における塗料の飛散を防止するため、外部足場に集塵装置を設置した。

問題. 5 災害防止対策

令和5年度後期 No.37

建築工事における危害又は迷惑と、それを防止するための対策に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 高所作業による工具等の落下を防ぐため、水平安全ネットを設置した。
- (2) 工事用車両による道路面の汚れを防ぐため、洗浄装置を設置した。
- (3) 掘削による周辺地盤の崩壊を防ぐため、防護棚を設置した。
- (4) 解体工事による粉塵の飛散を防ぐため、散水設備を設置した。

問題. 6 災害防止対策

令和3年度後期 No.37

建築工事における危害又は迷惑と、それを防止するための対策の組合せとして、最も不適当なものはどれか。

- (1) 投下によるくずやごみの飛散 —— ダストシュートの設置
- (2) 工事用車両による道路の汚れ —— 沈砂槽の設置
- (3) 高所作業による工具等の落下 —— 水平安全ネットの設置
- (4) 解体工事による粉塵の飛散 —— 散水設備の設置

問題. 7 事業者の職務

令和7年度前期 No.37

事業者の講ずべき措置として、「労働安全衛生法」上、定められていないものはどれか。

- (1) 労働者が有効に利用することができる休憩の設備を設けるように努めること。
- (2) 高所作業車を用いて作業を行う場合、高所作業車等作業主任者を選任すること。
- (3) 多量の発汗を伴う作業場において、労働者に与えるために、塩及び飲料水を備え付けること。
- (4) 日常行う清掃のほか、大掃除を定期的に、統一的に行う措置を講ずること。

問題. 8 事業者の職務

令和6年度前期 No.37

事業者の講ずべき措置として、「労働安全衛生規則」上、定められていないものはどれか。

- (1) 高さが2 m以上の構造の足場の組立て、解体又は変更の作業を行う区域内には、関係労働者以外の労働者の立入りを禁止すること。
- (2) 高さが2 m以上の構造の足場の組立て、解体又は変更の時期、範囲及び順序を当該作業に従事する労働者に周知させること。
- (3) 型枠支保工の組立て等作業主任者を選任すること。
- (4) 型枠支保工の組立て等の作業の方法を決定し、作業を直接指揮すること。

問題. 9 事業者の職務

令和4年度前期 No.38

高さが2 m以上の構造の足場の組立て等に関する事業者の講ずべき措置として、「労働安全衛生規則」上、定められていないものはどれか。

- (1) 組立て、解体又は変更の時期、範囲及び順序を当該作業に従事する労働者に周知させること。
- (2) 組立て、解体又は変更の作業を行う区域内には、関係労働者以外の労働者の立入りを禁止すること。
- (3) 作業の方法及び労働者の配置を決定し、作業の進行状況を監視すること。
- (4) 材料、器具、工具等を上げ、又は下ろすときは、つり綱、つり袋等を労働者に使用させること。

問題. 10 通路・足場

令和6年度後期 No.37

足場に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 単管足場の地上第一の布は、高さ2 m以下の位置に設けた。
- (2) 単管足場の隣接する建地の継手部は、同一レベルとなるように配置した。
- (3) 単管足場の建地の間隔は、けた行方向1.85 m以下、はり間方向1.5 m以下とした。
- (4) 移動式足場(ローリングタワー)の脚輪のブレーキは、移動中を除き、常に作動させた。

問題. 11 通路・足場

令和5年度前期 No.38

建築工事の足場に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) くさび緊結式足場において、壁つなぎの間隔は、法令で定められた単管足場の間隔を適用した。
- (2) 高さ5 m以上の枠組足場において、壁つなぎの水平方向の間隔は、10 m以下とした。
- (3) 単管足場において、単管と単管の交点の緊結金具は、直交型クランプ又は自在型クランプを使用した。
- (4) 枠組足場において、階段の手すりの高さは、踏板より90 cmとした。

問題.12 通路・足場

令和4年度後期 No.38

足場に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 折りたたみ式の脚立は、脚と水平面との角度を75°以下とし、開き止め具が装備されたものを使用した。
- (2) 移動式足場(ローリングタワー)の作業床の周囲には、高さ10cmの幅木と高さ90cmの中棧付きの手すりを設けた。
- (3) 単管足場の建地間隔は、桁行方向、梁間方向ともに、2mとした。
- (4) つり足場の作業床は、幅を40cmとし、隙間がないように敷きつめた。

問題.13 通路・足場

令和3年度前期 No.38

足場に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 枠組足場に使用する作業床の幅は、30cmとした。
- (2) 枠組足場の墜落防止設備として、交さ筋かい及び高さ15cm以上の幅木を設置した。
- (3) 移動式足場(ローリングタワー)の作業台上では、脚立の使用を禁止とした。
- (4) 移動式足場(ローリングタワー)の脚輪のブレーキは、移動中を除き、常に作動させた。

問題.14 作業主任者の選任

令和6年度後期 No.36

作業主任者を選任すべき作業として、「労働安全衛生法」上、定められていないものはどれか。

- (1) 工作物のコンクリートの打込みの作業
- (2) 土止め支保工の切りばりの取り外しの作業
- (3) 高さが5mのコンクリート造の工作物の解体の作業
- (4) 高さが5mの足場の変更の作業

問題.15 作業主任者の選任

令和3年度前期 No.37

作業主任者を選任すべき作業として、「労働安全衛生法」上、定められていないものはどれか。

- (1) 高さ5mの足場の変更の作業
- (2) 土止め支保工の切りばりの取り外しの作業
- (3) 軒高5mの木造建築物の構造部材の組立て作業
- (4) ALCパネルの建込み作業

問題.16 作業主任者の職務

令和5年度前期 No.37

足場の組立て等作業主任者の職務として、「労働安全衛生規則」上、定められていないものはどれか。

- (1) その日の作業を開始する前に、作業を行う箇所に設けた足場用墜落防止設備の取り外しの有無を点検すること。
- (2) 器具、工具、要求性能墜落制止用器具及び保護帽の機能を点検し、不良品を取り除くこと。
- (3) 要求性能墜落制止用器具及び保護帽の使用状況を監視すること。
- (4) 作業の方法及び労働者の配置を決定し、作業の進行状況を監視すること。

問題.17 作業主任者の職務

令和4年度後期 No.37

型枠支保工の組立て等作業主任者の職務として、「労働安全衛生規則」上、定められていないものはどれか。

- (1) 作業中、保護帽の使用状況を監視すること。
- (2) 作業を直接指揮すること。
- (3) 器具及び工具を点検し、不良品を取り除くこと。
- (4) 型枠支保工の組立図を作成すること。

問題.18 特定元方事業者の職務

令和5年度後期 No.38

建設業の現場における特定元方事業者が講ずべき措置として、「労働安全衛生法」上、定められていないものはどれか。

- (1) 機械等が転倒するおそれがある場所において関係請負人の労働者が作業を行うとき、その関係請負人に対する技術上の指導を行うこと。
- (2) 関係請負人が行う安全教育に対して、安全教育に使用する資料を提供すること。
- (3) 特定元方事業者の労働者及び関係請負人の労働者の作業が同一の場所において行われるとき、作業間の連絡及び調整を行うこと。
- (4) 足場の組立て作業において、材料の欠点の有無を点検し、不良品を取り除くこと。

問題.19 特定元方事業者の職務

令和3年度後期 No.38

特定元方事業者が行うべき安全管理に関する記述として、「労働安全衛生法」上、誤っているものはどれか。

- (1) 毎作業日に、作業場所を巡視すること。
- (2) 足場の組立て作業において、材料の欠点の有無を点検し、不良品を取り除くこと。
- (3) 関係請負人が行う安全教育に対して、安全教育に使用する資料を提供すること。
- (4) クレーン等の運転についての合図を統一的に定めること。

第5編 法規

令和7年度前期～令和3年度前期 問題

【本試験内容(昨年度の例)】

区分	細目	問題番号	出題・解答数	解答形式	選択/必須 (知識/能力)
法規	建築基準法	No. 43～50	出題数 8 問 解答数 6 問	四肢択一 (マークシート)	選択 (知識)
	建設業法				
	労働基準法				
	労働安全衛生法				
	その他の法規				

	問題 ページ	解説 ページ
第1章 建築基準法	150	304
第2章 建設業法	156	311
第3章 労働基準法	163	318
第4章 労働安全衛生法	166	322
第5章 その他の法規	169	325